

決議3：基盤データ

第15回UNRCC-APで承認された基盤データ共有方針

地域基盤データセットにおいてPCGIAP第2作業部会（基盤データ）が果たした功績

最近6カ国を加え合計18ヶ国となったデータセット公開、ウェブサイトでの地球地図データの提供及びポータルサイトの整備などの地球地図が果たした功績

以上について認識し

以下について勧告する。

PCGIAP アジア太平洋行政界データセット方針文書及びアジア太平洋地域基盤データセットの整備と利用に関する基本方針の承認

PCGIAP による地域基盤データセット、クリアリングハウス及びGISアプリケーションの整備・開発、特に：

- 地球地図に寄与する環アジア太平洋地域基盤データセットの整備着手、地球地図プロジェクトに参加していない加盟国がISCGMとPCGIAPの支援のもとでプロジェクトへの参加を検討するよう奨励すること
- APSDI クリアリングハウスの導入、各加盟国または地域によるAPSDI データノート整備、APSDI データノート及び各国が希望する他の基盤データセットへの地球地図データの取り込みを奨励すること。
- 基盤データに関する能力開発の取り組み、とくに国際協力事業団（JICA）の支援による国土地理院の研修プログラムを奨励すること。
- 地球地図プロジェクト、国連地名専門家会合、国連地理情報作業グループのデータベースプロジェクト及び第2レベル行政界プロジェクトなど他のイニシアティブと共同で課題に取り組むこと

決議4：地籍事業及びSDI

当会議は、

アジェンダ21の結論が、効率的で利用しやすい地籍制度に基づいた土地市場及び適切な土地所有制度の確立を促進させ、持続可能な開発及び環境管理の支援における重要な要因となっていることを認識し、

第15回国連アジア太平洋地域地図会議及び第6回・第7回国連アメリカ地域地図会議において決議及び討議された、加盟国における土地管理とSDIの関係及びSDI上での地籍データと地形データの統合に関するより深い理解と評価の必要性について重ねて認識し、

持続可能な開発と環境管理を支援するための適切な基盤の提供という点から、地籍・土地所有に関する情報と地形情報を統合する利点と問題点に配慮し、

地籍・土地管理問題について、特にSDI整備における地籍データの役割に関する経験の共有による加盟各国の利益に留意し、加盟各国においては、地籍・土地所有及び土地管理制度の効率・効果・成果の確認や世界的な現状の評価が難しいことを認識し、

PCGIAP第3作業部会（地籍）の2000—2003年行動計画及び2003年7月12・13日に沖縄で開催されたアジア太平洋地域地籍ワークショップの結果を想起し、

さらに、地籍テンプレートの重要性、つまり標準化された包括的な形式が加盟各国の土地に関する政策・法律・規制、土地所有、土地管理、地籍、制度化された手順、SDI、技術ならびに人材・能力開発などに関

する問題の発見を容易にするということを想起し、

以下について勧告する。

- PCGIAPとFIGが共同で開発した地籍テンプレートを採用する
- PCGIAP第3作業部会（地籍）が2003-2006年行動計画においてアジア太平洋諸国に当該テンプレートを完成させるよう働きかけることを支持する
- PCGIAPはFIG第7委員会（地籍・土地管理）、PCIDEA、国連ヨーロッパ経済委員会（UNECE）土地管理作業部会（WPLA）、国連アフリカ経済委員会（UNECA）開発情報委員会（CODI）と協力し、2003-2006年行動計画において、世界各国に当該テンプレートを完成させるよう求める
- PCGIAPはFIG第7委員会（地籍・土地管理）と協力し、2003-2006年行動計画においてFIG/PCGIAP地籍テンプレート同ウェブサイトにも各国の地籍テンプレートを掲載する
さらに、PCGIAP第3作業部会（地籍）の2003-2006年行動計画に以下の点を盛り込むよう勧告する。
- 海洋地籍の概念を説明する活動の継続
- 根拠や関連する概念的・制度的・技術的な問題を探り、加盟国のSDIの確立や維持における地籍図と地形図作成の関係についてより理解を深めること

決議5：能力開発

当会議は、

PCGIAPによる開発ニーズアンケートの結果、加盟国がSDI整備のために能力開発を必要としていることを踏まえ、

さらに、能力開発という概念には人的資本と社会資本両方の開発及び社会・組織・個人という3つの階層における能力の評価と開発が含まれることを認識し、

組織強化と能力開発に関する第7回国連アメリカ地域地図会議の決議2及び5を鑑み、

さらに、PCGIAPとPCIDEAの間の覚書を鑑み、

第16回UNRCC-APにおける能力開発についての議論を理解し、

SDI整備とその維持に必要な能力の評価及び開発について加盟国が直面している問題を認め、

以下を勧告する。

- 第4作業部会は活動範囲を定義しなおし、行動計画を策定し、2004年にインドで開催される第10回PCGIAP会合で発表する
- 第4作業部会は能力開発に取り組んでいる他の組織と戦略的な関係を構築し、PCGIAPが戦略的な関係を結んでいるかまたはこれから関係を結ぶべき組織と能力開発に関する会議について協力する余地があるか検討する
- PCGIAPは、オーストラリアのメルボルン大学SDI・土地管理センターがPCGIAP理事会にあわせて2003年11月19—21日に開催するSDIについての短期講座を支持し、加盟国や域外の代表者らが参加できるよう支援策を探る
- PCGIAPは、適正な土地管理制度や関連する空間データ基盤の整備に欠かせない教育的トレーニング及び専門的能力開発の方針・プログラムを策定するために、2004年10月にメキシコ政府主催によりアグアスカリエンテスで開催される地域間ワークショップを国連の支持のもとで可能な範囲において支持・支援し、